



研修の様子を紹介します

実践力向上研修

各学校園の実態に即した教職員の実践的な指導力向上のため、指導主事を派遣し、校内研修等の支援をしています。指導主事による特別支援教育やICT活用に関する講義・演習、教科指導に係る研究授業、研究協議への指導・助言を行います。

・県立荒川高等学校

9月8日（木）、職員20名を対象に「愛着障害とその対応」というテーマで研修を行いました。研修では、愛着形成が不十分であることが原因で生じる事例を取り上げ、学校でできる支援について考えを深めました。



受講者の声

「愛着」をキーワードに、もう一度生徒の顔を思い浮かべると、今までと異なる視点で生徒を見ることができた。明日からの生徒への支援に役立てたい。

実践力向上研修は、現在も受け付けておりますので、申込方法については県立教育センターのホームページを御確認ください。

※ 各学校園のほかに、市町村教育委員会、教育関係研究会等の要請に応じて教職員研修の支援を行う、「要請訪問」も行っています。詳細については、県立教育センターのホームページを御覧ください。

初任者研修(高等学校) 宿泊研修 自然体験研修 7月27日(水)、28日(木)

新潟県少年自然の家（胎内市）を会場として、一般社団法人「まなび創造アカデミー」の鎌田学先生を講師にお迎えし、「体験から学ぶ」と題して実習を行いました。実習で行った、絵だけが描かれた30枚の紙芝居を並べる活動を紹介します。最初に、1人あたり2枚の紙芝居がランダムに配られます。配られた紙芝居の絵の内容について、1人1人が言葉だけで他者に説明をします。その後、30枚の絵が1つの物語として成立するように、順序を相談し、30枚を伏せた状態で並べます。最後に、紙芝居を裏返し、物語となっているか確認しましたが、暗黙知を形式知に変換する作業は想像以上に難しかったようです。完成するまでに30分以上かかりましたが、答え合わせの時の大きな拍手が達成感を物語っていました。

なお、感染症拡大防止のため、宿泊を中止し、2日目は勤務校で研修を実施しました。

受講者の声

協働作業では、お互いの不足している部分を補い合うことで達成感が得られることが実感できました。

自分の暗黙知を表現するには、相手が知っている形式知に変換しなければならなかったことがわかりました。

